



しまね学習支援プログラム「地域魅力化プログラム」を活用したみなさんの様子をお伝えします。

「学校と地域をつなげる上で大切なことは？」

雲南市地域コーディネーター 森山 高明 さん
藤内 智子 さん



当センター主催の「ファシリテーター養成講座」を受講された森山さんと藤内さん。今回はお二人が「地域コーディネーター研修会」で実際にファシリテートされた様子を紹介します。

●二人でのファシリテート

Q: まずは地域コーディネーターのお仕事について教えてください。

藤内さん 私たち地域コーディネーターの主な業務は、学校のニーズを把握し、それに応えるために、地域講師や住民ボランティアを発掘したり派遣の調整をしたりすることです。また、学校だけでなく地域のニーズも把握した上で、お互いにとってメリットがあるように調整するのも重要な役割だと思っています。

Q: この研修会でファシリテーターをされた経緯を教えてください。

森山さん 派遣社会教育主事の方から依頼を受け、引き受けました。不安もあったのですが、自分自身もコーディネーターをしているので仲間内の研修会だったこと、私と藤内さん二人体制ということ、派遣社会教育主事の方のサポートもあるということで、引き受けました。

●理想を描き、そこへ向けて工夫する

Q: 事前にどのようなことを準備されたのですか？

森山さん この研修会の目的が「今年度のコーディネーター業務の取組をふり返り、次年度につなげる。」でした。そこで、参加者の方に、なるべくたくさん話をしてもらおうことを目指し、ラベルワークを用いることにしました。また、今年度の取組をより具体的にふり返ることができるように、「上手くいったこと」「苦労したこと」「大切にしたいこと、やってみたいこと」という3つのテーマで意見交換をしてもらおうことにしました。このように目的や手法、流れなどを事前打合せの中で藤内さんと派遣社会教育主事の方と相談して、みんなでプログラムを考えました。

藤内さん プログラムを考えながら、どちらがどの説明をするのか、グループへの声掛けはどうするのかなど、二人の役割分担も決めました。

Q: 当日のファシリテートで特に工夫したということがありますか？

森山さん 視覚的にお互いの考えを理解できるように、テーマに合わせてラベルを3色に分け、それぞれ貼る位置を分けました。また、最後のテーマはあえて初めから提示しませんでした。これは「うまくいったこと」と「苦労したこと」についてじっくり考えてもらいたいと思ったからです。

藤内さん ちょっとしたことですが、席札を工夫してみました。年明けだったこともあり、席のグループをABCなどではなく、門松や凧揚げなど縁起物のイラストにしてみました。少しでも参加者の方の緊張が和らぐと良いなと思ってそのようにしてみました。



Q: 今後についてお聞かせください。

藤内さん 改めて、「自分が楽しむこと」の大切さを感じました。自分も地域コーディネーターなので、皆さんの意見を聞きながら自然と楽しむことができ、リラックスしてファシリテートできたと思います。これからも楽しみながらやっていきたいと思っています。

森山さん これからも参加者が安心して自分の意見を言うことができること、満足感を味わってもらえるように頑張っていきたいです。そのために、参加者の様子を見ながら声掛けし、表情なども意識して工夫していきたいです。



当日は参加者がそれぞれの思いを語り合い、充実した研修会となりました。上記のような準備、工夫に加え、当日のお二人のスムーズな連携（一人が全体説明をし、一人が各グループへ個別サポート、タイムキーパー、立ち位置など）も効果的でした。今後のお二人の更なる活躍を応援しております。